

三内丸山通信



今年度の発掘調査の成果

今年度の調査（第三十三次調査）は五月二十日から十月三十日まで展示室南側に広がる「西盛土」を調べました。

西盛土の北端は？

これまでの調査で、西盛土の大きさは東西六〇mにわたることが判明していましたが、北端がよく分かっていませんでした。今回の調査では、調査地点をさらに北側へと延ばして発掘を行いました。

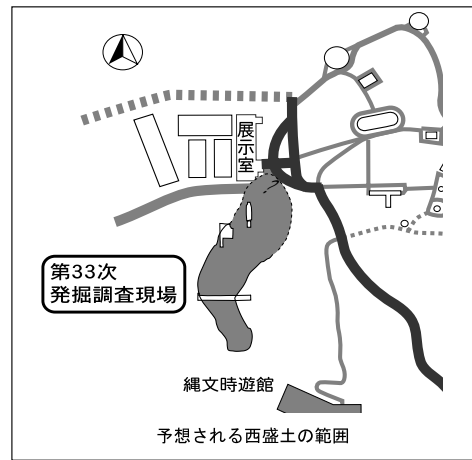
西盛土の年代と成り立ちとは？

調査では、地層の特徴を詳しく観察し、土や土器の盛られた方向や年代など、様々なデータを集めました。特に、小さな炭の粒や骨のかげらについても、見逃さ

その結果、現在の道路から地下約三mの場所に縄文土器や石器、赤土を含んだ地層があることが分かりました。また、柱穴や建物跡も見つかりました。西盛土の南北方向の広がりは一〇〇mを超える大規模なものであることが予想されます。



西盛土の土層



ないよう細心の注意を払いながら調査を進めました。西盛土では、縄文時代中期のはじめ（約四八〇〇年前）と中期（約四六〇〇年前）と中期頃（約四五〇〇年前）の地層が厚く、盛土の近くで様々な作業が行われていた様子がうかがえます。また、下の層には、ごろごろとした赤土の塊が多く見つかりますが、上の層には炭の粒と小粒の赤土が多く見られ、炭がまとめて捨てられていたり、焼けた土がまかれていたり、一つの地層の厚さが下の層よりも薄くなっています。これらから、下の地層の赤土の塊は「削る」のではなく、「掘る」、「砕く」ように

して作業が行われた跡と考えられます。上の地層は、日々の暮らしの中で不要になった様々な物が少しずつ捨てられて、徐々に溜まっていったような状態と考えられます。

西盛土と家や墓との関係は？

西盛土の中心部の地層から、子供の墓（埋設土器）が一〇箇所見つかりました。墓が作られた時期は中期のはじめ（約四八〇〇年前）と約四六〇〇年前頃で、これに前後する時期の地層で火をたいた跡が見つっています。また、盛土の西端付近には家の跡が多数見つかっており、中には同じ場所異なる時代の家が重なって見つかっているものもあります。この場所に住まいを構えることに対する強いこだわりが見られます。

また、南盛土や北盛土では、土偶や装身具、ミニチュア土器など、「まつり」の道具が多く出土しており、西盛土についても、「送り」の場としての儀礼的な役割を考えていく必要があります。

今後、出土した遺物をさらに分析し、西盛土の性格を明らかにするために調査を進めていきます。

現地説明会を開催

九月五日と十月十日に、発掘調査現地説明会を開催し、延べ一六〇人を超える見学者が訪れました。現代の地表面から、二mの深さまで掘り進めた発掘調査地点では、約一〇〇〇年間という長い期間、築き上げた土層を間近に見ながら、地層の年代、盛土の中で見つかった炭や骨、子供の墓、火をたいた跡などについて、職員が解説を行いました。また、今年の調査で出土した土偶やヒスイ、ミニチュア土器なども公開しました。



現地説明会



◎ 縄文文化説明会 ◎ ◎ ◎ ◎
「JOMON in London」
 ～世界遺産をめざして～ 開催

十一月十七日、イギリスのロンドンで、考古学研究者などを対象に、縄文文化とその遺跡の持つ価値や魅力について紹介するための説明会を開催しました。

説明会では、小林達雄氏（國學院大學名誉教授）が、世界史における縄文文化の位置付けについて講演し、縄文時代の道具や社会の様子、縄文人の持っていた知識などを紹介しました。続いて、岡村道雄氏（奈良文化財研究所名誉研究員）からは、三内丸山遺跡をはじめとした東北地方各地の縄文遺跡の近年の発掘成果を元に、そこからわかる縄文時代の人々の暮らしの様子



ロンドン大学訪問



説明会の様子

や、遺跡の整備・活用状況などについて講演が行われました。

このほか、岡田文化財保護課長が、世界遺産登録をを目指す「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」について説明し、約七〇名の参加者は、ヨーロッパの先史文化とは異なる縄文文化の講演に熱心に耳を傾けていました。

また、九月十日から大英博物館で開催中の「土偶」展の視察を行いました。

土偶展には、国宝をはじめ重要文化財に指定された

土偶など六七点が展示されており、青森県からは、国宝「合掌土偶」をはじめ、三内丸山遺跡の「大型板状土偶」、亀ヶ岡遺跡の「遮光器土偶」など数多くの土偶が展示されていました。

会場では、スケッチする人の姿なども見られ、多くの見学者が興味深げに土偶を鑑賞している様子からイギリスでの土偶に対する興味・関心の高さを伺うことができました。

なお、滞在中には、ロンドン大学考古研究所や日本の遺跡に詳しいセインズベリー日本芸術研究所を訪問し、世界遺産登録を目指す「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の活動に対して理解と協力をお願いしました。

新展示室工事中!

現在、縄文時遊館では、新展示室を整備するため、「縄文ギャラリー」部分の改修工事を行っています。

新展示室は、重要文化財も含めた豊富な実物資料を中心に、三内丸山遺跡を総合的・体系的に紹介する本格的な展示施設として、平成22年7月のオープンを予定しています。どうぞ御期待ください!



只今、工事中です。

縄文大祭典開催

九月五日（土）～六日（日）、三内丸山遺跡で「縄



特別収蔵庫見学会

文大祭典」が開催されました。二日間で約四〇〇人が訪れ、大いににぎわいました。

「縄文大祭典」では、三内丸山遺跡の魅力や価値について広く情報発信するため、「発掘調査現地説明会」、「特別収蔵庫見学会」、「縄文講座」、「ワークショップ・フオーラム」、「お月見コンサート」、「縄文楽市」など様々なイベントが実施されました。

このうち、第十一回目となった「お月見コンサート」では、北海道・北東北の音楽の交流と題して、各県等で活躍している演奏者が次々と出演しました。途中で月が顔をのぞかせると大きな歓声が上がリ、縄文人と同じ月を見ながら演奏に聴き入っていました。

また、「特別収蔵庫見学会」には約一〇〇名の参加者があり、普段公開されていない五三〇〇点の土器を解説を受けながら見学し、直接土器を手に持ち縄目模様や感触を確かめていました。

三内丸山遺跡のご案内

休館日	ボランティアガイドの定時案内	「運転免許センター」行き、
12月30日～1月1日	1回目は9時15分から	三内丸山遺跡前で下車
遺跡の開館時間	その後は10時から1時間ごと、	料金300円
10月～5月は午前9時～午後5時	最後は15時30分から	
展示室の定時案内	問い合わせ先	縄文時遊館内「縄文ギャラリー」
1日3回（約20分）	017-766-8282	は改修工事のため、平成22年7
（10時50分、13時50分、15時50分）	交通機関	月まで閉鎖しております。
問い合わせ先	青森市営バス	
017-781-6078	JR青森駅から 番乗り場	



お月見コンサート